

グリーンのある暮らし

つれづれ日記



グリーンのある生活に憧れる。

インテリア雑誌で見かける、棚の高いところに置かれてさりげなく垂れさがるグリーン、廊下の途中に大きな花瓶で枝ごと生けられた花木を見ると、私もやりたい！と思うが、高校生の時にもらったサボテンを枯らして以来、観葉植物を育てられたためしがない。

砂漠で育つサボテンが日に日に小さくなっていったときは、この部屋は砂漠よりも厳しい環境なのかと驚いたし、「何にもしなくてもぐんぐん大きくなるよ」と友人から分けてもらったポトスが枯れてしまったときは、「丈夫なポトスにも申し訳なかったし、友人の好意も無駄にってしまったよ」で心が痛んだ。

コーヒーの木が死んでしまったときは、ここはブラジルじゃないから仕方ないと思えたけれど、幸福の木を枯らしたときは、さすがに人生終わっただと思った。

水やりのタイミングがわかるスティックや、ベランダでも植え替えができるキッドも勧めてくれて、探していたブリキのじょうろも置いてあって（高かったけれど）、もう心は9割方決まった。今度こそ私にも育てられるかもしれない。

この際、オリーブの木もウンベラータもワイヤープランツも多肉植物も全部買ってしまえ！と思ったけれど、まずは一つだけ。

あまりの忙しさに水やりを忘れてたり、元気に育っていることに安心して肥料をやらなかったり、変なところで剪定して、全然葉っぱが出ない枝ばかりにしないで、ちゃんと来年まで生かしてあげられたら、また一つ増やそうと思う。

（文：市村 沙織）



そんなこんなでなるべく我が家は観葉植物は置かないようにしていて、うちにたまに現れる植物といえば、せいぜい二回目の発芽を目指す豆苗くらいである。

実は私の祖父の家は農家である。父は後を継がずにサラリーマンになったが、農家の血はしっかりと受け継いでいて、植物を育てるのが上手い。父の作る野菜は見た目も売り物のようだし、冬を越させるのが難しいシクラメンも、実家では何度も花を咲かせる。どうやら植物を育てるには絶対的なポイントがあるのだ。

小さい頃から畑を手伝わされていた父には言うまでもないことが、素人の私にはまるでわからない。

そういうわけで、農家の三代目にも関わらず、植木一つ育てられない娘になってしまった。しかし、やっぱり部屋に観葉植物を置きたい。グリーンがある暮らしをどうしてもやりたい。

オリーブの木をベランダにおいて、室内からも見えるようにしたいし、ウンベラータを窓際に置きたい。棚の上からワイヤープランツが垂れ下がってたら絶対に素敵だ（うちにそんな棚はないけれど）。

先日あるインテリアショップの観葉植物のコーナーをうろついていたら、店員さんに声をかけられた。

「買いたいけれど、すぐに枯らしてしまうので迷っている」と言うと、「土母（ドウモ）」という栄養剤のような存在を教えてくれた。

店員さんの家の枯れかかった植物も、「土母」で蘇ったという。

